

2024年4月18日

報道各社 御中

全国農業協同組合連合会三重県本部（JA全農みえ）

北勢も新茶シーズン幕開け！「伊勢茶」初市開催

鈴鹿市、四日市市、亀山市の3市を中心に、鈴鹿山麓に茶園が広がる北勢地域。鈴鹿市にある茶市場、JA全農みえ北勢茶センターで「伊勢茶」の初市を開きます。

同センターの初市は、昨年より5日遅い開催となります。今年の茶の生育は、3月に寒の戻りがあったものの、4月に入り適度な気温上昇や降雨で順調にすすんでいます。茶園の状況は霜害もなく良好で、品質のよい新茶が育っています。

初市では、生産者（JA販売担当者）と茶商の間に仲立人なかだちにんが入り、五つ玉のそろばん片手に交渉をとりもち、話がまとまると、三者で威勢よく手を3回たたき「手締め」をします。昔から変わらない商習慣です。

茶どころ三重の初夏の風物詩でもある、初市のようにすをぜひ取材いただきたく、下記のとおりご案内申し上げます。

記

■と き：2024年4月26日（金）13：30～ 初市（相対取引）

■ところ：JA全農みえ 茶販売課 北勢茶センター
鈴鹿市花川町80-1
TEL059-374-0322

■主 催：北勢茶センター（茶販売課長 前田 順士）



昨年度の初市のようにす

<ご参考>

【昨年の初市結果】

開催日	2023年4月21日
出品点数・数量	20点、500.4kg（煎茶、かぶせ茶、玉露）
最高価格	18,000円/kg
平均価格	4,636円/kg

【伊勢茶とは】

「伊勢茶」とは、三重県内で生産されたお茶のことをいい、主に「煎茶」「深蒸し煎茶」「かぶせ茶」の3種類が生産されています。

恵まれた立地条件のなかで栽培されるため生育がよく、葉肉も厚くなり芳醇でコクのある味わいが特徴です。

三重県は、栽培面積、荒茶生産量ともに、静岡県、鹿児島県に次いで全国第3位のお茶どころです。茶種別では、かぶせ茶の生産量は全国第1位で、全国シェア約64%（2022年産）と高いウエイトを占めています。

【三重県の風土と伊勢茶】

三重県は南北に細長い地形ですが、県内の大半は年平均気温が14～15℃と温暖で、茶の栽培に必要とされる年間降雨量1,500mm以上の地域では、ほとんどが茶の生産適地となっています。

本県での摘採時期は、地域による差はあるものの、おおむね一番茶（新茶）は4月下旬から5月中旬、二番茶は6月下旬から7月上旬です。これは全国的にみると、遅場の産地となります。

県内の農場では、食の安全や環境保全などに取り組む農場に与えられる認証である、国際水準GAP認証を数多く取得しており、地域全体で安全・安心な緑茶づくりに取り組んでいます。

【北勢地域の伊勢茶】

鈴鹿市、四日市市、亀山市の3市を中心に、鈴鹿山麓の比較的傾斜のゆるやかな丘陵地に茶園が広がっており、経営規模の拡大がすすんでいます。

茶種は、「煎茶」「かぶせ茶」が多く、「てん茶（抹茶の原料）」や「もが茶（加工用粉末緑茶の原料）」などの生産も行われています。